

明治以来、教科書で紹介され、「偉人」のイメージがつきまと伊能忠敬の素顔を知るには、測量日記、幕府への報告、家族への手紙など多くの記録を読むに限る。謹厳実直で、面白みがないとされる忠敬だが、重要な文化財を含む資料からは、多趣味で意外な人柄が浮かんでくる。

推歩先生

幕府天文方で十九歳年下の高橋至時に天文学を学んだ忠敬は、結構気さくだったらしく「推歩先生」と呼ばれていた。

「推歩」とは、本来、天文学上の計算のことだが、逆に天測や歩測が苦手だったのをやめてつけられたあだ名だとする説がある。なぜそう呼ばれたのか。

忠敬は毎回、自宅を起点にした歩測や天体観測の記録

を高橋至時に報告した。んで励ましたというのだ。伊能忠敬研究会の渡辺一郎事務局長は「確かに初めては異なった。先生として熱心さを評価したいが、数値が一定しないのは困る。そこで、「推歩」と呼んだ。それが次からは〇・二に浅草を一人で測った地図は、誤差が一二%もある。

人脉多彩

全国測量に当たっては、

例えれば、国学者の久保木清淵。清淵は自ら復刻した忠敬の多くの友人のアドバイスがあったはず、と研究者らは見る。事実、友人は多くた。

忠敬は、菅の陰で測量を行った先々で学者らに歓迎され、何人も有能な弟子を紹介している。有名な狂歌師の蜀山人も友人で、自分も狂歌を詠むようになつた。測量先の伊予国（愛媛県）佐田岬では次のような狂歌を詠んだ。

白髪の
三千丈も何ならじ

伊予のおはなば
十八里あり

忠敬の子孫の一人で、東京都世田谷区に住む伊能陽子さんはこの狂歌を読んで手ほどきをしていますが、いくら先祖でもほめにくいですね」

郷士の子

忠敬は、家訓を二通残しました。このうち伊能陽子さん宅に残る「家訓心得」の冒頭にこうある。

「孝は仁義の根本に候親の言に従い家事を治



「伊能忠敬画像（部分）」
佐原市所蔵

資料に残る意外な素顔

中国古典「孝經」の序文をいまも伊能家に伝わる由来書によると、祖先は下総国伊能（千葉県大栄町）の領主。しかし一五八八年（天正十六年）、当主の伊能岐守が戦に敗れて切腹し、その後の代から商人になつたという。

このくだりを、忠敬はなぜかわざわざ別の紙に何度も抜き書きしている。士農工商の時代、忠敬は階級にこだわっていたのだろうか。

忠敬自身は郷士の子に生まれたが、十七歳の時に商家に婿入りした。「前身は武士だったという、婿の恩もあったのかも知れませんね」。千葉県佐原市にある伊能忠敬記念館の佐久間達天元館長は、こう推測す